

作成（2025 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	鍬田龍星
所属機関名	獣医学部獣医学科
職位	教授
在籍年	7 年

教育の責任

獣医学部・獣医学科に所属し、動物由来感染症を中心とした教育・研究活動を行なっている。主たる教育活動は、一般教養科目の生物進化学、獣医基礎教養科目の人獣共通感染症学、動物感染症学、獣医微生物学実習、動物衛生学実習、獣医アドバンスト科目の国際獣医事概論、国際獣医関連法規、人獣共通感染症学実習、ならびに卒業論文研究指導、留学生の大学院研究指導を行っている。

教育の理念

現在知られている感染症の約 70%は動物由来感染症と考えられており、今後もその数は増え続ける。私は、身近に存在する様々な動物由来感染症について、獣医教育課程を経て培う知識と経験を最大限に活かして地域社会の公衆衛生を守り、また、自己研鑽や啓蒙活動を通じて次の世代へもそのバトンを渡す役目を果たすことができる人材の育成に努める。一方で、日本には存在しない、または今後、日本に侵入するかもしれない越境性動物由来感染症などに対しても正しい知識と教養を身に付け、世界に目を向けて国際的に活躍できる人材を育成したい。感染症の問題を多角的にとらえ、その対策にワンヘルスの概念を中心とした複合的視野を持ちうる人材の育成に努める。そのためには、病原体を一側面的に悪として捉えるのではなく、微生物そのものや、それを取り巻く環境に対して、学生が知的好奇心を持って講義内容や実習に取り組めるような教育を心掛ける。

教育の方法・方針

理念を具現化するために、グローバルな視点から生物の進化を理解し、専門基礎科目として、微生物学を中心に分子生物学、遺伝子工学、生化学、免疫学、疫学、公衆衛生学などを修養することが必要である。さらに、発展的な教養として、病原体取り扱いのためのバイオセーフティやバイオセキュリティ、遺伝子組換え生物の取り扱いや、遺伝資源へのアクセスと利益配分などについて理解するための関連法規について学び、身に付けることが求められる。そこで、理念の実現に向けた 4 つの方針と、それに対応する方法について整理する。

【方針 1：感染症統御のためのワンヘルス・アプローチ】

感染症とは、地球誕生の長い歴史からみて原始生命体である微生物と、遙か後期に誕生した、人を含む動物群の相互作用の一つである。そのため、感染症の統御におけるワンヘルス・アプローチには、地球歴史上の環境変動や生物の生い立ちについて概念を学ぶ必要がある。科目を担当している生物進化学や人獣共通感染症学の講義を通じて、これらの知識を修養する。講義の到達目標は、学生に自由で多様な学びの場を与えることである。

【方針 2：感染症に関する基礎的な知識と技術の習得】

感染症の対策や病原体の取り扱いには、正しい知識と技術を習得する必要がある。科目を担当

している人獣共通感染症学、動物感染症学、人獣共通感染症学実習、微生物学実習、動物衛生学実習、卒業論文研究を通じて、これらの知識と技術を習得する。国家試験対策を念頭において授業内容を意識し、ミニテスト等による予習・復習と解説を取り入れ、感染症についての獣医師として必要な基礎体力の向上を図る。

【方針3：感染症や関連法規についての発展的教育】

獣医事分野におけるより専門的な知識を修養し、社会に貢献できる獣医師としての自覚を促す。具体的な内容として、バイオセーフティとバイオセキュリティ、遺伝子組換え生物の取り扱いや遺伝資源へのアクセスおよび利益配分に関する関連法規等について、科目を担当している国際獣医事概論、国際獣医関連法規、人獣共通感染症学実習、卒業論文研究を通じて習得する。また、日本国内の他大学や研究所の共同研究者と合同でセミナーや研修を行い、より高度で多様な技術と感覚を養う。レポート課題やプレゼンテーションを中心とした内容を重点に置き、学生の自発的な学びと実践的なスキルを身に付ける。

【方針4：国際的に活躍できる人材の育成】

地球上では国際交流が進み、若い世代はこれまで以上に国際的に活躍できるスキルを身に付ける必要がある。そのために、私自身が海外の研究者たちと交流することで窓口となり、学生にその機会を与えたいと考える。国際共同研究や国際研究集会等の参加、海外留学生の研究指導受け入れを積極的に行い、グローバルな感覚を備えた人材の育成を行う。

教育の成果

- ・一般教養科目の生物進化学では、穴埋め記述式の期末試験を実施して講義内容の再確認を行う。講義に対する学生からの評価は、「満足」「ほぼ満足」が9割以上を占め、高評価を頂いている。その後の基礎教養科目へ繋がる、地球誕生から生物の生い立ち、そしてワンヘルス・アプローチへの展開に役立っていることを期待したい。
- ・獣医基礎教養科目では、ミニテストと期末試験を実施し、講義の理解度を数値化し評価する。獣医師国家試験に関連する講義であることから、予習と復習を重点して行う。講義に対する学生からの評価は、「満足」「ほぼ満足」が8割以上を占め、概ね高評価を頂いている。一方で、講義内容の情報量が多すぎるといった指摘も頂いたが、大学教育は国家試験の範囲だけを学ぶというものでもないと思うので、今後は内容にメリハリをつけた講義をより一層心掛け、不足分はオフィスアワーや質疑応答を行いやすい環境整備に努め対応したい。
- ・獣医アドバンスト科目ではレポート課題やプレゼンを中心とし、刻一刻と変化する獣医事関連の時事的な社会問題について見分を広めるための柔軟な思考能力を養う。学生の自発的な学びとアウトプットを重点に評価する。講義に対する学生からの評価は概ね高評価を頂いているが、一方で講義内容は教科書的なものではなく、学生のフィードバックに対する客観的評価は難しいと感じている。私自身も継続した学びが必要である。

今後の目標

講義については概ね高評価を頂いているものの、課題についていけない学生が数名存在するため、より学習意欲の向上や理解度の高い講義を目指す。また、学生に対する指導において、基礎的な学習と応用的・実践的な研究とのバランスの見極めは難しく、それを解消してゆきたい。

根拠資料

シラバス、講義資料、実習資料、学生アンケート